

## 芽を出したい。

- M「冬なのに植物。これいかに」  
 F「図書館に来れば、季節関係なく本があります！草が生えるほど面白い本だってあるはずです！そんな粋な企画なのです！」  
 M「テーマ決めたとき、本当にそこまで考えていたの？」  
 F「いえまったく」  
 M「行き当たりばったりじゃないの！」  
 T「ww」  
 F「人生いつでも出たとこ勝負！」  
 M「植物といえばさー、私はキットがあったらとりあえず試してみるんだけど」  
 F「虫!? 無視!?!」  
 T「ww」  
 M「サボテンを種から育てるキットがあって、やってみただけど、芽が出なかった」  
 F「サボテンの種?ってどんなのですか？」  
 M「覚えてない。ちっこいサボテンが可愛いらしくて見てみたかったんだけどな〜」  
 F「植物を育てるのが苦手な人が、サボテンさえ枯らしました、と仰るのをよく聞くのですが、実はサボテン育てるのがって高度なことなのでしょうか」  
 スタッフN「私もやってます。一度失敗したんですけど、リベンジしたら芽が出てきました」  
 F「みどりのゆび……!」  
 M「他にも、松をやったことがある」  
 F「ちなみにそれはどこから？」  
 M「もちろん、種よ」  
 F「松の種……。いや植物だからありますよね、そりゃ」  
 M「それも失敗した」  
 F「あの、うまくいったもの、あるんですか？」  
 T「ww」  
 M「失敬な！って、それにしても、Tさんなんかしゃべりなさい！wwばっかり！」  
 T「んー、草を生やす前に芽を出したいですね(にっこり)」  
 M&F「ふぐう」



←QRコードでも  
アクセスできます

インスタグラム公開中 ここにアクセスしてね★

<https://www.instagram.com/hondarake55>

## ホンダラケ

2024.12.1

## 年末年始は、ww

F「今年の年末年始は〇〇シリーズはwwです！」

T「具体的には何をしますか？」

F「さあ、どうしましょうねえ」

M「決めておきなさいよ」



## 『願いごとの樹』

キャサリン・アップルゲイト/著 尾高薫/訳 偕成社 2018年刊



933/アツ

町に立つ一本のレッドオークの樹(レッド)。人々は年に一回この樹に願いごとを書いた布や紙を結びにやってきます。今年、一人の少女・サマールがかけた願いは「友だちがほしい」——。

下手なジョークを言うレッドと、カラスのボンゴ。二人(?)の奮闘とこの樹に集う動物たちの協力。サマールの願いは叶うのでしょうか。優しいユーモアに満ちた物語です。

## ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

# 青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「植物・花」  
年末年始は自然に、緑に、かこまれて、ワッサワサ!!!

## 『植物図鑑』 有川浩／著 幻冬舎 2013年刊

「お嬢さん、よかったら俺を拾ってくれませんか。嘔みません。躰のできたよい子です」。そんな奇矯な台詞から物語は動き出す。

彼の名は「樹」。植物の話に加えて、樹と主人公のさやかな愉快的会話。彼らの人間模様の描写が「植物」だけでないこの本の見どころです。二人が話すたびに語られる植物の話や恋模様が魅力的な一冊です!

P.N. あお (高校2年生)



F/アリ

## 「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

## 『空を見上げてわかること 齊田季実治／著 身近だけど知らない気象予報士』 PHP 研究所 2022年刊



451.2/22

空を見上げることが少なくなったなーと感じるわたしたちに空から得られる情報の大切さを教えてくれる1冊。この本では空に関することはもちろん、予想が完璧に的中するとは限らない気象予報士だから感じる、伝えることの難しさや大切さなども語られています。わたしたちの生活に、そして植物の生活にも、かかせない「空」について知ることは、毎日の天気予報の見方やこれから起こる災害の時の行動や備えにも影響を与えてくれます。明日からは、空を見上げて思うことも変わってくるかもしれませんよ。

## 新着図書 Pick Up

### 『14歳のためのシェイクスピア』

木村龍之介／著 大和書房 2024年刊

なぜか14歳限定のシェイクスピア入門書。著者によると、人生で一番感受性が豊かな14歳という年齢は、強烈なセリフを発して暴れまわる(?)人物が多く登場するシェイクスピア作品を体験するのにピッタリなのだそう。確かに現代ではコンプライアンス的にNG気味なセリフもあり…。そんな戯曲を書いたシェイクスピアをもっと知りたくないですか?読めばきっともっと身近に感じられるようになる1冊です。

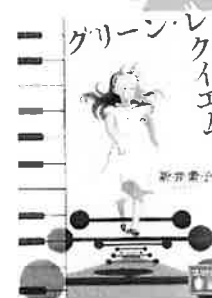
932/シエ

## 難しいと思われているけれど、実は面白い名作があるから読んでみてほしいんです。

### 『グリーン・レクイエム』 新井素子／著 講談社 1983年刊

信彦が子どもの頃に出会った緑の髪をした女の子。大人になった信彦が出会ったのは、いつも公園のベンチで日光浴をしている明日香。腰まで届く黒くて長い髪を持つ明日香はあの時の女の子の面影を持っていて…?

高校生でデビューした著者が19歳の時に書いた作品で、優れたSFに贈られる星雲賞を受賞しています。想像を超えた衝撃の結末が待っています。



F/アラ